



金藤 秀明 教授
Hideaki Kaneto

- 認定医・専門医・指導医
日本内科学会認定内科医、
認定産業医、日本糖尿病学
会専門医・指導医
- 専門分野
糖尿病・内分泌・脂質異常症

当科のトップとして多忙を極める金藤教授だが、オフの息抜きは旅行などのこと。「国内やときどきは海外へ出かけています。住んでみて岡山の印象は？「岡山は気候が穏やかで魚や果物おいしいですね。自然も豊かで住みやすい所だと思います」。どこまでも温和な表情が印象的だった。



院内連携により、いつでも気軽に栄養指導が受けられるシステムを構築。また中央検査部との協力により、血液検査結果が約1時間で得られるので、きめ細かい指導が可能になっている。糖尿病は自覚症状が現れにくいだけに早めの検査、治療が大切。最も患者数の多い50歳以上は特に注意。



当科の診療の中心は、生活習慣病の管理と治療。代表的な疾患である糖尿病の入院患者については、医師、糖尿病療養指導士(看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師)などがチームを組んで診療、教育にあたっている。

患者が増えている2型糖尿病の「ブドウ糖毒性」の研究にも携わり、より有効な治療法を目指す金藤教授。糖尿病週間(※)の患者向け行事では講演会や健康相談、血糖・身体測定等実施し、診療チームをあげて取り組み地域医療に貢献。

※11月14日は国連が定める「世界糖尿病デー」。当院ではこの日を含む1週間。



医療 >>> vol.36
最前線
糖尿病・代謝・内分泌内科

Report!

チームのチカラで 糖尿病治療に取り組む

by 川崎医科大学附属病院

四〇歳以上の五人に一人が糖尿病という驚くべき事実。

「わが国の糖尿病患者の数はご存じですか？最新のデータによるとその数は、九五〇万人。予備群を含めると二〇〇万人。実に日本の人口の五分の一を占めます。四〇歳以上に限ってみれば、五人に一人が糖尿病、予備群を含めれば三人に一人という驚くべき数値になります」と語るのは糖尿病・代謝・内分泌内科の金藤秀明教授。長年にわたって糖尿病をはじめとする代謝内分泌疾患の研究、診療に携わり、日本糖尿病学会専門医、指導医として当科を率いている。

中年なら誰もが気になる糖尿病。ずばりその原因は何なのか？
「インスリンの分泌や作用する力が不足して起こる二型糖尿病の場合、最大の要因は欧米型の食生活です。欧米人は脾臓の力が強いので、あれだけ高カロリーの食事を続けてもインスリンで血糖を抑制できますが、脾臓が弱りやすい日本人が、欧米型の食生活を続けられれば、糖分の処理が追いつかなくなり、血糖値は上がりっぱなしになります。この状態が休むことなく毎日続けば、必然的に脾臓のインスリン分泌力が衰えて糖尿病を発症してしまいます。ちなみに日本人の脂肪摂取量は、五〇年前と比べて三〜四倍に増えました。加えて車社会による慢性的な運動不足。糖尿病患者は今現在も増え続けているんです。」

注意すべきは、三大合併症。専門医による早期治療が肝心。

では糖尿病になると具体的にどんな症状が出て、生活に支障をきたすのだろうか？「喉が渇く。トイレの回数が増える。こむら返りやすくなる」といった症状が出ますが、重症の場合は体重が急激に減少します。また、糖尿病で怖いのは合併症。なかでも糖尿病性の網膜症、腎症、神経障害は三大合併症と呼ばれ、毎年約三〇〇〇人が失明し、約二万六〇〇〇人が人工透析を余儀なくされる患者さんが増えています。また神経障害は頑固な神経痛や排尿、排便障害の原因となり、日常生活が非常に制限されることとなります。患者の生活の質に大きく関わる糖尿病。当科の診療体制は？「専門医が看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師などの医療スタッフと協力し、患者さんの状態を包括的に把握して、最も患者さんのためになる医療を行なうよう努めています。また、近隣のかかりつけ医の先生方との病診連携も積極的に進め、治療方針等の情報を緊密に交換しています。」

最後に専門医としてのアドバイスを。「合併症は一度起こると完全にもとに戻すのが困難ですから、糖尿病の患者さんは合併症を起こさないような確かな治療を行なうことが大切です。予備群の方は早めの検査で、早期発見、早期治療です。穏やかな笑顔で語りかける金藤教授。これから専門医としての活躍が期待されている。

お問合せ
川崎医科大学附属病院
086-462-1111
http://www.kawasaki-u.ac.jp/hospital/